

高知県における地方創生を目指した人材育成に関する研究

高知工科大学 経済・マネジメント学群 1220494 田邊誠人

指導教員 中村直人

研究背景

私は生まれてから現在まで高知県で過ごしており、小さいころから地元の方々と関わる機会が多くあった。高知県で過ごしてきた中で地域の方々に支えられ、人の温かみを感じてきた。こうした経験から私は地元・高知県が好きになり、高知県で就職し、高知県の発展に貢献したいと考えるようになった。

しかし、一緒に過ごしてきた地元の友達私の考えとは真逆で、「高知県には何もない」、「都会で便利な暮らしをしたい」と言ってほとんどが就職・進学を機に高知県から出ていってしまった。私は高知県の魅力ばかり考えていたが、当然課題もあるわけで、こうした課題を解決していくことで高知県から出ていく友達や若者が再び高知県に住みたいと思える街にしていくことができるのではないかと考えた。

研究目的

本研究では高知県における地方創生を目指すうえでの人材育成について教育から適切に見直していくことを目的とする。

調査・分析方法

文献研究と事例研究により地域人材の育成について研究し、高知県に適した手法を考察する。

分析結果

地域人材の育成についてはリーダーと支えあう人々の存在が重要であり、幼少期から体系的に地域づくりを学び、実践していくことで将来を担う若者の育成につながる。

県外の事例については岩手県紫波町のオガールプロジェクトや長野県の教育の手法を参考にし、地方創生を目指した人材育成を学校教育の観点から見直す必要があると考える。

考察・結論

高知県の地方創生の課題として中山間地域を持続可能にしていかななくてはならないということと、官民連携を適切に行っていくことが考えられる。こうした課題を解決する事ができれば人口減少の負のスパイラルから脱することができ、永続的な地方創生につながると考えられる。私はそのためにも高知県はまずこうした人材を育成するために学校教育から見直していく必要があると考えており、小学校の時点から中山間地域に目を向ける学習内容やフィールドワークを取り入れたり、有望な人材を高知県に残していくためにもはやい段階から「働く」ことについての理解を深める学習を積極的に行っていくことが学校教育に求められていると考える。